

研究評価委員会分科会各委員からの評価結果に対する対応について(事後評価)

課題名「建築物の地震防災技術情報ネットワーク構築」

1. 主な所見

・所見 :

中間評価結果を踏まえて IISEE-net が構築・公開されている。双方向情報交換、将来への継続性、他機関とのリンク、データ更新方法等が検討され、現実的に役立つことが期待できる成果となった。当初目標を達成し、研究課題としては平成 14 年度で終了したが、国際地震工学センターの活動の目玉として更なる発展が期待される。IISEE-net を継続・拡充していくための体制確保と予算措置が必要である。

・所見 :

研究成果の外部発表は必ずしも十分でないが、IISEE-net の構築段階では進め難いということで理解できる。また、国内外の関連学会など必要な場での発表が予定されており評価できる。研究成果を積極的に宣伝して、外部からの意見や情報を取り入れ、IISEE-net の利用価値が一層高まることを期待したい。

・所見

研修事業と連携した途上各国の情報収集は、国際地震工学センターの特徴をうまく活かした工夫である。しかし、情報が全て揃う国が现阶段では限られていたり、また、研究論文等でより高度な情報が発表されているのに IISEE-net に取り込まれていなかったりする点はやや残念である。第二段階のプロジェクトを期待し、今後の内容拡充に際しては以下の事項に配慮されたい。

- ・関係機関とはネットワーク上のリンクだけでなく、研究協力を通じて情報の充実を図るとよい。
- ・地震観測網、地震被害履歴、建築耐震基準、マイクロゾーンのカテゴリーに固執せず、必要な情報を柔軟に盛り込むとよい。また、Webpage の各項目にはもっと丁寧な解説が必要である。
- ・マイクロゾーンに加えてマクロゾーンの情報も整備するのがよい。また、我が国の防災事業に関して、地震調査推進本部や国・自治体の防災 Webpage にもリンクを貼るとよい。

2. 主な所見に対する回答

・所見 に対する回答 :

本研究期間を IISEE-net の創設期と捉え、今後も IISEE-net の継続的運用と内容拡充に努めることとしたい。内容拡充の一環として、途上国向けの被害推定技術の開発を目指した新規プロジェクト「建築物の早期地震被害推定システムの開発(平成 15~17 年度)」に着手しており、IISEE-net の継続的運用に必要な体制と予算を確保している。

・所見 に対する回答 :

ご指摘の趣旨を踏まえて IISEE-net の積極的な宣伝に努め、国内外からの一層の利用促進を図りたい。

・所見 に対する回答 :

今後も研修事業を通じて情報の蓄積を図りつつ、国内外の関係機関と連携して一層の内容拡充に努めたい。IISEE-net に追加すべき情報、情報掲載スタイルの改良、関連機関リンク集の充実等については、新規プロジェクトの中で随時検討を行い、ご指摘の趣旨を反映できるよう努めたい。